

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0207 NO87

校長 伊波喜一

底冷えに 目が覚めぬるか 休眠の 緋寒桜が 色あでやかに

桜の開花は東京では4月だが、沖縄では2月に緋寒桜（ヒカンザクラ）が満開となる。立春前後の寒さで桜の花芽が休眠から目覚め、気温の上昇にともない、花開く。桜は何度かの底冷えを経て、開花の準備をする。通常、桜前線は南から北へと北上する。最北端の北海道では、5月に万朶の桜を愛でる。ところが、沖縄では北から南へと南下する。これは、本島の北に位置する本部（もとぶ）半島の高度が高く低温なため、花芽が目覚めるからである。桜の休眠打破に数度の冷え込みが必要である、というのは面白い。確かに温かさという絶対的環境がなければ、桜は咲かない。しかしそこに冷え込みというスパイスを利かせなければ、十分に目覚めない。それも一度きりではなく、数回程度。スパイスは、ストレスとも言い換えられる。簡単には乗り越えられないからこそ、人は知恵をふりしぼり・汗を流し・人の力を借りることを覚えるのだ。「寒さにふるえた者ほど、春の温かさを知る」とはシルレルの言。スパイスを利かせることで、私達も人生の醍醐味を満喫できるのではないだろうか。